創 刊 に あ た っ て

ここに、『映画で学ぶ《教育学》』を創刊する。本誌タイトルにいう「映画」は、ひろく視聴覚資料を含意している。DVD 等の形式で提供される映像作品のみならず、写真や絵、音楽作品など、教育について考えるヒントを与えてくれる様々な視聴覚資料を紹介し、教育学の視点から論じることが本誌の目的である。

人は、生きている限り学んでいる存在である。教育や学習という行為は、人々の生活のあらゆる場面に見出すことができる。そのように捉えるならば、あらゆる作品の中に、教育の情景が描かれていると言えよう。とりわけ映画のなかには、必ずと言ってよいほど子どもたちが登場する。学校や家庭、街の中に生きる子どもたちの様子や教育の現状を描き、問題点を指摘する作品も多い。その社会的なインパクトは、教育学研究の成果をはるかに跳び越えるものがある。教育学を探究する上で視聴覚資料から学ぶことは非常に多く、その道案内として本誌を企画した。

創刊号で取り上げたのは、洋画 11 本、邦画 3 本、テレビ放送作品 2 本であり、いずれも教育について深く考えさせられる内容を含む作品ばかりである。執筆者は、教育学を専攻する大学教員及び大学院生である。相互に論稿を読みあいながら、数度にわたり推敲を重ねてきた。テーマは生涯学習、家庭教育、看護、文化、学習指導など多岐にわたる。それぞれの教育に対する思いを込めた、意欲的で情熱的な論稿が集まった。教師を目指す学生諸子、毎日子どもと向き合い教育実践をされている教員の皆様、そして教育学に関心を持つすべての同志に向けて、本誌をお届けする。

本誌発行にあたり、多くの DVD 発売／販売元様及びご担当者様のご協力を頂いた。パッケージ表紙や内容画像を快くご提供頂き、またクレジット表記や DVD 情報まで細かなご指摘を頂いた例も多かった。心より感謝申し上げたい。著作権の関係で内容の変更をせざるを得なかった論稿が多く、また画像掲載に際しての条件も様々で、読みづらい点も生じてしまった。どうぞご寛恕頂きたい。

皆様の忌憚なきご意見、ご批判を頂き、さらなる研究の発展を目指したい。

2012 年 2 月

代表　荒川 麻里